

正常な生育にグリセリンを要求する *Alcaligenes faecalis* var. *myxogenes* のサクシノグルカン生成能

J. Ferment. Technol., **51**, p. 843~849 (1973)

灰原利光・雨村明倫・原田篤也 (大阪大学産業科学研究所)

Alcaligenes faecalis var. *myxogenes* は合成培地, 天然培地さらに菌体けんだく液によってもグルコースなどからサクシノグルカンとよぶコハク酸をふくむ酸性の多糖類を非常に収率よく生産することができる。グリセリンは細胞膜のホスホリピッドの構成成分として知られているので, サクシノグルカンの生成能にホスホリピッドがどう関与するかを知るべくまずグリセリン要求株を分離することを試みた。その結果グリセリンのないところでは十分に生育し得ない変異株を得, このもののサクシノグルカンの生成能はグリセリンがないといちじるしく減少することを知った。グリセリンを加えると親株と同様にサクシノグルカンをつくり, グリセリンのかわりに α -グリセロリン酸, グリセリン酸, グリセリンアルデヒドはなり得る。その影響はこの順序にしたがい減少する。しかし 3-ホスホグリセリン酸, グリセリンアルデヒド-3リン酸, ジヒドロキシアセトンリン酸や2-ホスホグリセリン酸は影響がないか, ごくわずかの影響を示した。このような結果および酵素の研究結果からして, 変異株1017では NADP 依存のグリセリン-3-リン酸脱水酵素が損われているらしい。グルコースのみの培地で生育した変異株の菌体中のホスホリピッドの全量は親株の量より少ない。グルコースのみの培地で生育した変異株の菌体のサクシノグルカンの生成活性は, 反応液にグルコースと共にグリセリンが与えられても, なお弱く, グルコース・グリセリンの培地で生育した菌体は, たとえ反応液に炭素源としてグルコースのみが与えられても, その活性は親株の場合と同様に強かった。このようなことからしてサクシノグルカンが十分な量生産されるには, ホスホリピッドが損われていない細胞膜が必要であるらしい。

Mycotorula japonica と *Bacillus subtilis* の混合培養

J. Ferment. Technol., **51**, p. 850~857 (1973)

三浦喜温・余 明順・上村直子・米虫節夫・岡崎光雄 (大阪大学薬学部製薬化学科)

グルコースを炭素源として *Mycotorula japonica* と *Bacillus subtilis* との混合培養を行ない, それら両微生物間の相互作用を調べた。その結果 *M. japonica* (AM 4185 株) はその単菌培養においては殆んど増殖

しないのが, *B. subtilis* JB15 と混合培養することによってよく増殖することがみとめられた。その原因を調べたところ *B. subtilis* の分泌する desthiobiotin が *M. japonica* の増殖を推進することが判明した。また Pantothenate 及び casamino acid はそれら自身は *M. japonica* の増殖推進効果をもたないが, desthiobiotin との共存においては *M. japonica* の増殖推進効果を増大することが判明した。

Schizophyllum commune によるエタノールと炭酸カルシウムからの L-リンゴ酸生成*

J. Ferment. Technol., **51**, p. 858~864 (1973)

立花 精・村上俊男 (立命館大学理工学部化学科)

Schizophyllum commune を用いて, 非炭水化物を原料とする有機酸の発酵生産を目的とした。まず, 本菌の非炭水化物利用能を調べ, 次にその中で最も優れていたエタノールからの L-リンゴ酸発酵に関して, その培養条件を検討した。

非炭水化物として使用した低級アルコール, *n*-パラフィンの中で, 本菌はエタノールを最もよく利用し, プロパノールがこれに次いでいた。発酵生産物をペーパークロマトで調べたところ, L-リンゴ酸が主生成物で, 他にコハク酸, フマル酸, 乳酸も若干認められた。これはグルコースを原料とした場合のパターンと比べ, 大差はなかった。

エタノールからの L-リンゴ酸発酵に関して, その培養条件を検討した結果, 次のようなことがわかった。1) エタノールはその初発濃度を 4 g/100ml 以上にすると, 菌体増殖, L-リンゴ酸生成ともに顕著に阻害したが, feeding を行なうことによりその阻害は緩和され, 特に L-リンゴ酸生成は大幅に増加した。2) スクリーニングの結果, エタノールに適した菌株は *S. commune* IAM No. 9006 であり, エタノールに適した培地組成はエタノール 1 g, NH_4NO_3 0.05g (あるいはポリペプトン 0.1g), KH_2PO_4 0.2g, $\text{MgSO}_4 \cdot 7\text{H}_2\text{O}$ 0.15g, KCl 0.025g, MnCl_2 0.13mg, thiamine 0.75 μg , CaCO_3 1 g, 水道水 100ml であった。3) 上記菌株, 培地を用いて, 添加エタノール 1 g から 0.6 g 以上におよぶ L-リンゴ酸を生成せしめ, 同条件でのグルコースからの生成量を約50%も上まわった。4) この場合, 培地組成から CaCO_3 を除くと有機酸の生成が認め難く, また有機物の balance sheet は添加エタノール 1 g に対して, L-リンゴ酸, その他の有機酸, 菌体重量等の総計は 1 g を越えていた。5) 以上の結果, エタノールからの L-リンゴ酸生成には,

* 炭酸固定醗酵に関する研究 (第25報)

グルコースからの場合と同様、炭酸固定反応が関与していると推論した。

***Thiobacillus ferrooxidans* による Chalcocite 酸化の機構**

J. Ferment. Technol., **51** p. 865~870 (1973)

今井和民・坂口博通・杉尾 剛・田野達男(岡山大学農学部)

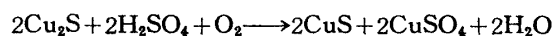
細菌による硫化金属の酸化・溶出に関しては、間接接触機構(すなわち、硫化金属は Fe^{3+} と硫酸によって化学的に酸化され、その際生成する Fe^{2+} が細菌の鉄酸化酵素によって酸化される機構)と直接接触機構(可溶性の鉄は関与せず、菌体が硫化金属と直接接触することによって金属が溶出される機構)の2つがあると考えられている。著者らは鉄細菌(*T. ferrooxidans*)を用いて chalcocite (Cu_2S)の酸化・溶出機構を検討した。その結果、この菌の菌体懸濁液は鉄を全く添加しない条件下でも Cu_2S を酸化・溶出し、その最適 pH は 2.3 附近にあり、銅溶出と酸素吸収のモル比は各 pH においてはほぼ 2.0 であった。

またこの菌の cell-free extract は鉄酸化酵素とチオ硫酸酸化酵素の活性を強くもち、さらに Cu_2S 酸化活性も弱いながらもつことを認めた。

Cell-free extract の鉄およびチオ硫酸酸化活性は、キナクリン ($5 \times 10^{-3}\text{M}$) によって強く阻害されるが、 Cu_2S 酸化活性は全く阻害されないことから、この条件下における Cu_2S 酸化は直接接触機構によるものと考えられる。

一方、この cell-free extract を長時間透析すると Cu_2S 酸化活性は著しく低下するが、これに Fe^{3+} を加えるとキナクリン存在下においても Cu_2S 酸化活性は透析前のレベルに回復する。このことから Cu_2S を直接酸化する酵素系は Fe^{3+} を一つの co-factor として必要とするものと考えられる。

さらに、菌体懸濁液は Cu_2O も酸化・溶出する活性をもつことを認めた。また、直接接触機構による Cu_2S の酸化は次式のごとく行なわれるものと推論した。



低温細菌, *Pseudomonas* sp. B-71 による有機酸の生成

J. Ferment. Technol., **51**, p. 871~878 (1973)

加藤暢夫・緒方浩一(京都大学農学部農芸化学教室)

10°C でコハク酸を生成する低温細菌を琵琶湖の湖水より分離し、*Pseudomonas* sp. B-71 と同定した。

本菌は 0 から 35°C まで生育し、その至適温度を 28°C

に有する通性低温細菌であった。生育至適温度ではコハク酸と2-ケトグルコン酸の生成が認められたが、それより高い温度域では2-ケトグルコン酸が、低温域ではコハク酸が専ら蓄積された。この温度による酸酵転換をひきおこす因子の一つとして、低温で培養した菌体中のコハク酸脱水素酵素活性が低温で著しく低いことが認められた。

多方、培養温度によって菌の生化学的性質が変化すると考えられる知見が得られた。

Candida kefyr* の菌体外 β -Fructofuranosidase の精製とその酵素的性質

J. Ferment. Technol., **51**, p. 879~886 (1973)

根来秀夫(神戸女学院大学研究所)

Candida kefyr の菌体外 β -fructofuranosidase をタンニン酸による分別沈殿、DEAE-Sephadex A-50 および SE-Sephadex C-50 によるクロマト法で、ほぼ単一な状態に分離した。この精製標品は、培養液に比し蛋白 1 mg 当たり約 29 倍、炭水化物 1 mg 当たり約 55 倍の比活性を有する。クロマトグラフィーの挙動では、イヌリン分解作用、蔗糖分解作用、蛋白区分および炭水化物の4つのピークは完全に一致している。

菌体外酵素の蔗糖、ラフィノースおよびイヌリンに対する作用力の比率は、菌体内酵素のそれとほぼ等しいことが知られた。両酵素とも、*Saccharomyces cerevisiae* や *Candida utilis* の β -fructofuranosidase に比し、イヌリン分解力が特に顕著である。上述の4酵素標品はいずれも、メレチトースには全く作用しない。菌体外、菌体内酵素いずれもイヌリンを完全に分解し、その作用形成はほぼ同様なことが知られた。

菌体外、菌体内イヌラーゼの最適 pH はいずれも 4.5 であるが、前者は pH 3 以下の酸性側および pH 8 以上のアルカリ側では、作用力がより微弱である。両酵素の作用-温度曲線はほぼ等しく、最適温度はそれぞれ 50°C である。また耐熱性に関しては、ほとんど差がみられない。55°C 以下ではかなり安定であるが、65°C、10 分間の加熱でほぼ完全に失活する。菌体外酵素は菌体内酵素に比し、pH 3 以下の酸性側および pH 9 以上のアルカリ側で不安定であるが、尿処理に対してはより安定なことが認められた。

菌体外酵素も菌体内酵素と同様に、硝酸銀、塩化第二水銀、フェニルヒドラジンや *p*-chloromercuribenzoate によって阻害されるが、両酵素作用に対するこれら試薬の阻害率には、かなり顕著な差異がみられた。

* 酵母 β -Fructofuranosidase に関する研究(第3報)

小麦粉中の酵母インベルターゼ抽出因子

J. Ferment. Technol., **51**, p. 887~894 (1973)

根来秀夫・布施みち子（神戸女学院大学研究所）

酵母細胞に小麦粉の水抽出液を加えて、一定条件で incubate することにより、インベルターゼを能率よく抽出し得ることを知った。このインベルターゼ抽出因子は、多くの小麦粉およびライ麦中に普遍的に含まれているが、その含量は品種によりかなり相異している。小麦粉の漂白はインベルターゼ抽出効果にほとんど影響を与えない。

本因子を小麦粉の水抽出液より、硫酸塩析、エチルアルコールによる沈殿、および SE-Sephadex C-50 のカラムクロマトグラフィーにより分離した。この精製因子は 280 nm に極大吸収を示し、加熱により抽出効果が減退するが、100°C、10 分間の加熱においても、なお幾分その作用を保有している。

本因子は、pH 3.0~10.0 の間では安定であるが、pH 2 以下の酸性側および pH 11.5 以上のアルカリ側では不安定である。

本抽出法を適用した場合は、従来の自己消化法および陽イオン性界面活性剤による抽出法に比し、インベルターゼ接取量も多く、また、夾雑多糖類も僅少なことが認められた。

細胞結合リパーゼの固定化と、固定化したリパーゼの不溶性酵素としての性質

J. Ferment. Technol., **51**, p. 895~903 (1973)

小杉佳次・鈴木英雄（工業技術院微生物工業技術研究所）

Pseudomonas mephitica var. *lipolytica* を硫酸を加えた培地で培養すると生産されたりリパーゼのおよそ 95% が菌体区分にみられた。この洗浄菌体を pH 6~7 で 45°C に 24 時間維持すると、92% のリパーゼが溶出してきた。しかし洗浄菌体を、pH 5 で 70°C に 30 分間維持すると 90% のリパーゼが菌体に固定化していた。この固定化したリパーゼ標品を、細胞結合リパーゼが溶出するのに最適な条件に維持しても、リパーゼはほとんど溶出してこなかった。

固定化したリパーゼの活性は、それを可溶化したリパーゼの 83% にあたる活性を示した。また固定化したリパーゼと可溶化したリパーゼとの最適温度、耐熱性には相違がみられなかったが、オリーブオイルエマルジョンの分解の活性化エネルギーは著しく異なっていた。固定化したリパーゼにより、トリブチリン、トリアセチンの連続分解が可能であった。

Apparent Age Model による非定常連続醗酵の解析

J. Ferment. Technol., **51**, p. 904~916 (1973)

松村正利・向高祐邦・吉留 浩・小林次郎（東京教育大学農学部生物化学工学科）

連続醗酵に関する最適操作設計を合理的に行なうには、定常状態だけでなく非定常状態下における微生物の挙動を予測できることが必要である。本報告は、従来定常連続醗酵の解析に用いられてきた Apparent age model を非定常域に拡張して解析方法をより一般化し、最適問題を取り扱う為の基礎づくりを目的として行なった。なお、実験的検討には増殖連動型の *S. cerevisiae* によるアルコール醗酵および非連動型の *B. fructosus* による D-フラクトース醗酵を用いた。これらの検討の結果、つぎのような結論が得られた。

回分醗酵の実験結果から培養模型が得られれば、連続醗酵の非定常、定常域における菌体、基質、生産物濃度の変化が培養模型と菌の age 分布とから予測することが出来る。また、バクテリアに対する本モデルの適合性が確認され、従来のようにバクテリアに関する age の定義を酵母の場合と区別することは必ずしも必要ではない。

炭化水素-水系における油滴径分布に対する酸素の影響〔ノート〕

J. Ferment. Technol., **51**, p. 917~920 (1973)

P. A. Sanchez Podlech, A. M. F. L. J. Bonomi, A. M. F. Gomes, and W. Borzani** (Instituto de Energia Atomica, São Paulo, Brazil **Department of Chemical Engineering, Escola Politecnica, University of São Paulo, São Paulo, Brazil)

ディーゼル油と蒸溜水よりなる系において油滴径分布が酸素によって強く影響されることを報告する。

窒素通気の場合には油滴径分布には変化がないにも拘わらず空気通気によって油滴径の分布域は径の大きな方向に移動する。これは多分油中の成分の酸化物質の生成に起因する油-水素の物理化学的状態の変化を反映していると考えられる。醗酵槽の仕様をまとめた表と、酸素の影響を示す油滴径分布曲線の図を三葉、空気による分布に関する実験定数の経日的変化についての図を一葉発表する。

会 報

昭和48年度日本醸酵工学会大会

昭和48年度日本醸酵工学会大会は、11月20日から22日までの3日間にあたり、日本生命中之島研修所（大阪市北区常安町29）において開催された。会場は第1会場（講堂）、第2会場（ホール）、第3会場（E教室）第4会場（第2教室）、展示場（第1教室）の5会場にわかれ、179演題の発表が行なわれた。すなわち廃液処理、醸造、清酒、非炭水化物、不溶化酵素、微生物、殺菌、生物化学工学、酵素、醸酵生理、生産の一般講演と廃液処理、非炭水化物資源の微生物工学、細胞壁溶解酵素、工業微生物の代謝調節、醸酵装置の設計と制御ならびに醸酵プロセスの最適化、きのこの人工培養、醸酵動力学の各シンポジウムならびにアミノ酸核酸集談会との共催によるアミノ酸核酸シンポジウムを行ない熱心な討論がくり広げられた。

大会第2日目は、臨時総会ならびに恒例の三賞授賞式および受賞講演が行なわれた。

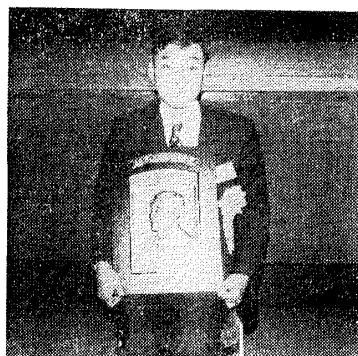
臨時総会では、定款第8条の会費改訂について会長から最近の諸物価の高騰とくに印刷経費、編集経費および人件費の増加は、事業の遂行を著しく困難にしかねない状態であり、明49年度より正会費4000円、学生会費2500円、団体会費10,000円、賛助会費1口20,000

円（1口以上）に改訂したい旨説明があり、審議した結果、全員異議なく承認した。

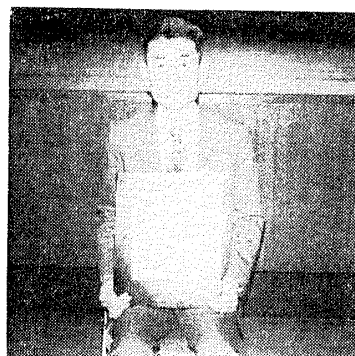
また、付則追加案について諮ったところ、事務の合理化につながるものとして、原案通り異議なく承認した。引続き授賞式および受賞講演が行なわれた。まず、田口授賞選考委員より、江田賞の永谷正治氏について、合葉授賞選考委員より、学会賞の秋葉昶彦氏について、能美授賞選考委員より、斉藤賞の野々村英夫氏についておよび岡田授賞選考委員より八木寿一郎氏について、それぞれ選考経過および業績について報告があり、会長から、賞牌、副賞（金一封）が贈呈された。

受賞講演は、江田賞「清酒醸造工程の生物化学工学的制御」、学会賞「気体巻込み方式の塔型発酵装置に関する研究」、斉藤賞「土壤中における放線菌の分布」および「*Cephalosporium* の生産するアルカリ性プロテアーゼに関する研究」のそれぞれが発表された。

なお同日午後5時30分から、市内北区にある中華料理「北京」において140余名参加の盛大な懇親会が催された。



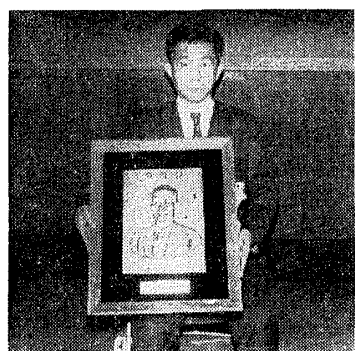
江田賞受賞者 永谷 正治氏



学会賞受賞者 秋葉 昶彦氏



斉藤賞受賞者 野々村英夫氏



斉藤賞受賞者 八木寿一郎氏

昭和48年度 臨時総会議事録

1. 日 時 昭和48年11月21日 午前9時～10時
 2. 場 所 大阪市北区常安町29 日本生命中之島研修所
 3. 出席数 本人出席 50名, 委任状による者 632名(正会員数1779名)
 4. 議事の経過および結果

照井会長が議長となり, 会務の概要および将来の展望についてあいさつがあり議事に入る。

第1号議事 議事録署名人選定

議事録署名人についてはかったところ, 議長の指名に一任されたので議長は次の2名を署名人に選定した。

田口 久治氏
富金原 孝氏

第2号議事 定款改訂に関する件

(1)定款第8条改訂に関する件
(会費)

第8条 この法人の会費は次のとおりとする

1. 正 会 費	年 額	4,000円
2. 学生会費	年 額	2,500円
3. 団体会費	年 額	10,000円
 4. 賛助会費 年額 1口2万円
1口以上
- 上記改訂案について諮ったところ, 全員異議なく承認した。
- (2)付則追加に関する件
- 1 定款第13条および第20条によって選任した役員の任期は, 法人許可の日にかかわらず, 次の各号によるものとする。
 - (2) 昭和48年10月28日付就任した役員および評議員の任期は, 昭和50年3月31日までとする。
 - (3) 昭和50年4月1日以後役員および評議員の任期は, 定款第13条および第20条を適用する。
- 上記付則追加案について諮ったところ, 全員異議なく承認した。
- 以上をもって議会を終了した。

昭和48年度 第2回理事会議事録

1. 日 時 昭和48年11月19日 午後4時～6時
2. 場 所 大阪市北区梅田8 新阪急ビル内 レストランパレス
3. 出席者 照井 堯造, *合葉 修一, 芝崎 勲, 江夏 敏郎, 富金原 孝, 福井 三郎, 原田 篤也, 市川 邦介, 上久保 正, *栗山 一秀, 楠本 四郎, 緒方 浩一, 岡田 弘輔, 大嶋 泰治, 田口 久治, *高橋 穰二, 高原 義昌, 高尾 彰一, *武田 六郎, 上田誠之助
*委任状
4. 議事の経過および結果

照井会長が議長となり, 会務の概要について報告があり, 議事に入る。

1. 報 告

下記の項目について担当理事から報告があり, これを承認した。

(イ)庶務関係: 田口理事より, 本年度上半期における事業経過, 総会, 理事会, 評議員会等の開催状況および会員の動向について報告があった。

(ロ)経理関係: 芝崎理事より, 本年度上半期に収支について報告があった。

(ハ)編集関係: 江夏理事より本年度上半期の編集状況について報告があった。

II 議 事

(イ)定款改訂に関する件

(a)定款第8条改訂に関する件

第8条この法人の会費は, 次のとおりである。

正 会 費	年 額	4,000円
学生会費	年 額	2,500円
団体会費	年 額	10,000円
賛助会費	年 額	1口20,000円 1口以上

上記改訂案について審議した結果, 全員一致でこれに賛成し, 総会に上程することを決定した。

(b)付則追加に関する件

 1. 定款第13条および第20条によって選任した役員の任期は, 法人許可の日にかかわらず次の各号によるものとする。
 - (2) 昭和48年10月28日付就任した役員および評議員の任期は, 昭和50年3月31日までとする。

(3) 昭和50年4月1日以後役員および評議員の任期は、定款第13条および第20条を適用する。
上記原案について、審議した結果、全員一致でこれに賛成し、総会に上程することを決定した。

(ロ)会誌購読料改訂に関する件

和文誌 450円, 英文誌 550円

上記改訂案について審議した結果、全員一致でこれに賛成した。

(ハ)長期計画に関する件

長期計画委員会の組織について審議した結果、プロジェクトの選択や構成に関し、当初から関連産業界および研究諸機関との密接な連繋を取りうるような委員会を結成することを決定した。

(ニ)新入会員承認に関する件

正会員47名、学生会員16名、団体会員3社および賛助会員7社(7口)の入会申請に対し、後日常任理事会が検討した結果を考慮して承認することが決った。

昭和48年度第2回評議員会議事録

1. 日 時 昭和48年11月20日 午後4時～6時

2. 場 所 大阪市北区梅田町8 新阪急ビル内 レストランパレス

3. 出席者 有馬 啓, 天羽 幹夫, *白戸 紋平, 橋田 度, *本多 久吉, *本江 元吉, *本莊 太彦
福本寿一郎, 石井隆一郎, *市野 一磨, 飯田 茂次, 岩本 博道, 加賀美元男, 蔭山 公雄
*角田太一郎, *川野 義男, *金子 安之, *北原 覚雄, *木下 祝郎, 小林 次郎, 小林 達吉
古賀 正三, 小玉 健吉, 草井 清, 久米川英世, *黒岩 芳朗, 間瀬 泰男, 松尾 義之
三輪 大作, 三輪 万治, 三浦 喜温, 茂木 正利, *村上 英也, 村尾 沢夫, *中川 赴
*中浜 敏雄, *長瀬俊三郎, *根平 武雄, *小野 英男, *尾崎浅一郎, *酒井 平一, 佐藤友太郎
高岡 研一, *田辺 脩, 辰巳 忠次, *高橋 甫, *外山 信男, 豊沢 誠, 千畑 一郎
*角田 俊直, 梶倉辰六郎, 辻阪 好夫, 梅津 雅裕, *山田 浩一, 山本 武彦, 安井 之雄
吉田 文武

* 委任状

陪席者 照井 堯達, 合葉 修一, 芝崎 勲, 江夏 敏郎, 田口 久治, 大嶋 泰治

4. 議事の経過および結果

三輪大作氏を議長に選出し議事に入る。

I 報 告

照井会長から会務の概要ならびに理事会の経過などについて報告があり、続いて下記事項について担当理事からの報告を承認した。

(イ)庶務関係：田口理事より本年度上半期における事業経過、総会・理事会・評議会等の開催状況および会員の動向について報告があった。

(ロ)経理関係：芝崎理事より本年度上半期の収支について報告があった。

(ハ)編集関係：江夏理事より本年度上半期の編集状況について報告があった。

II 議 事

1. 定款改訂に関する件

(a)定款第8条改訂に関する件

第8条 この法人の会費は、次のとおりとする

正 会 員 年額 4,000円

学生会員 年額 2,500円

団体会員 年額 10,000円

賛助会員 年額 1口20,000円

1口以上

上記改訂案について審議した結果全員一致でこれに賛成し、総会に上程することを決定した。

(b)付則追加に関する件

1. 定款第13条および第20条によって選任した役員は、法人許可の日にかかわらず次の各号によるものとする

(2) 昭和48年10月28日付就任した役員および評議員の任期は、昭和50年3月31日までとする

(3) 昭和50年4月1日以後役員および評議員の任期は、定款第13条および第20条を適用する上記原案について審議した結果全員一致でこれに賛成し、総会に上程することを決定した。

2. 長期計画に関する件

長期計画委員会の組織について審議した結果、プロジェクトの選択や構成に関し、当初から関連産業界および研究諸機関との密接な連繋をとり得るような委員会を作ること決定した。

昭和48年度第1回編集委員会議事録

1. 日 時 昭和48年11月22日 12時～13時
2. 場 所 大阪市北区常安町29 日本生命中之島研修所
3. 出席者 合葉修一, *有馬 啓, *富金原 孝, 福井三郎, 原田篤也, *木江元吉, 市川邦介, 石井隆一郎,
*北原覚雄, 小林達吉, 古賀正三, *緒方浩一, 岡田弘輔, *奥貫一男, *佐藤友太郎, 芝崎 勲,
田口久治, 辰巳忠次, *村上英也, *柴崎一雄, *岡見吉郎, 照井堯造, *吉田文武, 山本武彦
上田清基 編集理事 江夏敏郎 幹事 大嶋泰治

4. 議事の経過および結果

照井会長が議長となり議事に入る。

I 報 告

昭和48年度上半期の編集状況について江夏理事から、原稿受付状況、月別受付原稿掲載状況および投稿数と掲載数について報告した。

II 議 事

イ. 綜説著者候補選定

編集幹事会で内定した綜説著者候補について審議した結果、9件の候補の内から5件を選定し第52巻、第3巻から、第53巻第1号まで掲載すること、5件の選定については、後日編集委員から推薦してもらうことが決った。

なお、綜説掲載の謝礼として、刷上り1頁当たり1,500円ならびに別冊50部を贈呈することが決った。

ロ. 投稿規約の改訂

従来の方文誌投稿規約を英文誌にも適用できる

よう改訂した。

ハ. 雑誌スタイル変更改訂について

明年度第52巻の表紙は現スタイルで刊行する。ただし、今年度第51巻と容易に区別するため、雑誌の背中に一本線を入れることが決った。

ニ. 原稿処理手続きの改正

事務処理を容易にするために (1)原稿カードに主著者名の Address をつける。(2)編集幹事と Referee 間の原稿領収書をハガキに印刷し郵送の確認をする。(3)著者手入れ依頼後3ヶ月以内に返却ないときは、事務的に提出辞退として取扱う。(4)原稿の郵送は簡易書留として速達は使用しない、などが決った。

ホ. その他

- ・編集幹事名を Associate Editor として編集委員の下部へ記入する。
- ・著者所属の英文名は可能なかぎり外国人にわかり易い書き方とすることを決めた。